

令和6年度 総合的な学習の時間 全体計画 江戸川区立船堀小学校

校長名 山下 靖雄

名称: 総合的な学習の時間

学校の教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・よく考えすすんで学ぶ子 ・思いやりのある心豊かな子 ・さいごまでやりぬく子 ・たくましくじょうぶな子
----------------	--

国が示す総合的な学習の時間の目標
<p>探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 探究的な学習の課程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。</p> <p>(2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。</p> <p>(3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。</p>

学校の総合的な学習の時間の目標
<ol style="list-style-type: none"> 1 横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと。 2 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成すること。 3 学び方や物の考え方を身につけること。 4 問題の解決や探求活動に主体的、創造的、協働的に取り組む態度を育てること。 5 自己の生き方を考えることができるようにすること。

育てようとする資質や能力及び態度	
知識及び技能	
第3・4学年	第5・6学年
・自分で調べたい問題を見つける。	・解決の方法や手順を考え、見通しを持って計画を立てる。
思考力、判断力、表現力等	
第3・4学年	第5・6学年
・学んだ事を自分の生活の中で生かそうとする。	・目標を設定し、課題の解決に向けて行動する。
学びに向かう力、人間性等	
第3・4学年	第5・6学年
・他人の活動や考えを大切にす。	・他者と協同して課題を解決する。

内 容	学習対象	学習事項
第3学年	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピューターになれよう ・本で知ったことをクイズにしよう ・しよぎょうをしようかしよう ・ローマ字とコンピューター ・江戸川区の伝統文化を調べよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンに興味をもち、操作や調べ方について理解する。 ・本で知ったことに疑問を見つけ、自分の課題を調べ、まとめ ・興味ある仕事を調べ、パンフレットにまとめる。 ・パソコンを使ってローマ字について理解を深める。 ・地域や学校の文化や伝統にふれる。
第4学年	<ul style="list-style-type: none"> ・環境について考えよう ・江戸川区の伝統文化を調べよう ・身近な福祉を調べよう ・未来に向かって 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境問題について関心をもち、自分の考えや実践を伝え ・伝統文化について調べやおしゃらくを体験し理解を深める。 ・身の回りの福祉の設備や問題について調べ理解を深める。 ・今の自分を見つめ、感謝の気持ちを表現する。
第5学年	<ul style="list-style-type: none"> ・米作り体験をしよう ・米について調べよう ・雪国の生活を調べよう 	<ul style="list-style-type: none"> ・バケツ稲で苗から育てる体験をする。 ・米の成長や農家の工夫を調べる。 ・魚沼でのウインターに向けて、雪国の生活を調べる。
第6学年	<ul style="list-style-type: none"> ・日光について調べよう ・自分の将来について考えよう ・卒業に向けて 	<ul style="list-style-type: none"> ・日光の歴史と文化を調べる。 ・夢について考え、人に話を聞いたり職業を調べたりする。 ・成長を実感し、感謝の気持ちを表現する。

学習活動	指導方法	指導体制	学習の評価
<ul style="list-style-type: none"> ・3年生は地域、4年生は福祉や環境、5・6年生は国際理解・キャリア教育とする。 ・調べ学習 ・言語活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導の工夫 ・協同的な学習活動の充実 ・教科との関連的な指導の重視 ・読書科との関連 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年教職員による支援体制の確立。 ・ゲストティーチャーなどの専門的知識のある方を積極的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導と評価の一体化を目指し、授業改善に努める。